

# 市民団体が福祉灯油暖房費助成の実施を釧路市に要請



伴副市長に要請の趣旨を説明するいのちとくらしを守る市民会議の川村成子代表委員

11月14日、社会保障推進協議会といのちとくらしを守る市民会議が、市に対して福祉灯油の実施を求める緊急要請を行い、村上千早しげ市議が同席しました。市はかつて暖房費助成Ⅱ「ぬくもり助成金」を行っていましたが、行革で廃止しました。しかし昨年、原油高騰対策として非課税世帯と均等割だけが課税されて

いる世帯に、臨時に5千円の支給を行いました。改めて、この冬にも同様の支援を求めた要請です。

## 昨年を上回る灯油価格の高騰

今年の灯油価格は、ウクライナ戦争と異常円安の影響で、120円/ℓと、昨年を大きく上回っています。食料品も生活必需品も相次いで値上げ、庶民の暮らしは大ピンチです。

## 室温18度以下で健康悪化

多くの世帯で暖房費の節約をしています。W.H.O.は室温が18度以下で暮らすと高血圧などの健康被害が顕著にふえると警告しています。

国は非課税世帯に5万円の臨時給付を行います。札幌市はこれに1万円を上乗せ、旭川市は2万円の福祉灯油の支給します。釧路市のほとんどの自治体が福祉灯油を行っています。

## 市政も「冷たくありませんか？」

要請書を受けとった伴副市長は、「今回の物価高騰は全世帯に影響を及ぼしており、市は上下水道料金の基本料金の軽減で対応することにした」と暖房費の助成には積極的ではありませんでした。



村上千早しげ通信 2022. 11. 27

発行 共産党市議団 23-5212



## 支所 大楽毛 説明会

# いったん棚上げして市民と話し合おう

市は、パブコメや市民の意見を聞いて最終的に判断すると言いますが、12月議会に廃止条例を提案することにはゆずりません。

でも会場の多くの方は、議会に下駄を預けるようなことはせず、シッカリと市民と話し合いを続けよ。そのため、12月議会への提案と3月末の廃止は一端棚上げするというものでした。



説明会であいさつする秋里副市長

(参加者の意見を紹介します)

- 廃止表明から期間が短く、三月末の廃止は拙速だ。こんなに急いだのでは高齢者は対応できない。
- 大楽毛にできる津波避難ビル・複合施設に支所を入れて、支所が管理を担うようにすればよい。
- 廃止一辺倒ではなく、今後の支所の役割を考えてほしい。コ

- パブコメのお願いで地域を回ると、みんな支所廃止に怒っている。
- まちづくり基本条例はまちづくりは市民の意見を聞きながら進めるとある。今回のやり方はこれに反している。
- 圧倒的な声が反対である以上、いったん廃止は棚上げにして、話し合いを続けよ。
- まちづくりのプランも示されず、まるで地域を切り捨てようとしているようだ。
- デジタル化のために支所は廃止とガチガチに決めてやっているんでしょ。

